

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

綾部市教育委員会

1 調査概要

- (1) 調査日 令和7年4月17日(木)
- (2) 調査対象 小学校6年生・中学校3年生
- (3) 調査事項 ① 児童生徒：教科調査(国語、算数・数学、理科)／質問調査
② 学 校：質問調査
- (4) 調査問題 ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題が出題されている。
・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージが発信されている。
- (5) 今年度の調査の特徴
 - ・CBT調査の導入(中学校理科)
 - ・生徒質問でのランダム方式の施行
 - ・多様な生徒の状況把握
 - ・結果公表の内容、スケジュールの改善
- (6) 集計対象 児童生徒数・学校数(公立)

	区 分	実施学校数	参加児童生徒数
小 学 校	全 国	17,897校	944,123人
	綾部市	10校	196人
中 学 校	全 国	9,219校	877,654人
	綾部市	6校	240人

2 教科調査の結果から

(1) 結果概要

小学校は、国語、算数、理科の3教科とも、全国平均正答率(以下、「全国平均」という)を上回りました。

中学校は、国語、数学では、全国平均を上回りましたが、理科は下回りました。

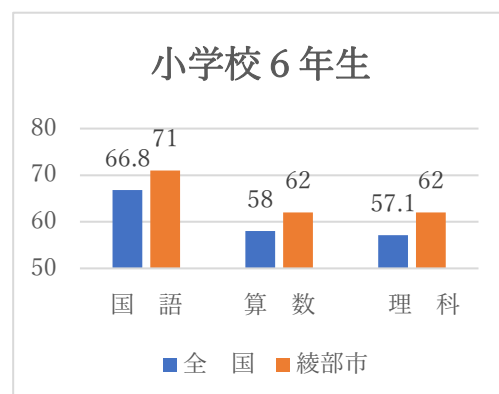
小 学 校 6 年 生		全 国	綾部市	中 学 校 3 年 生		全 国	綾部市
	国 語	66.8	71		国 語	54.3	57
	算 数	58.0	62		数 学	48.3	57
	理 科	57.1	62		理 科	50.3	49.5

※ 中学校理科は、平均 IRT スコア(各問題の難易度から学力を推定し500点を基準とするもの)での結果です。

※ 市の平均正答率は、整数値のみで公表することとされています。

(2) 小学校

国語は、学習指導要領の内容では、「我が国の言語文化に関する事項」のみ全国平均を下回りました。その他の内容は全国平均を上回りました。全国平均を上回った主な問題は、「目的に応じて資料から情報を見付け、まとめて書く」「自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える」でした。全国平均を下回った主な問題は、「段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考える」「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに



気付く」でした。

算数は、学習指導要領の内容すべてで全国平均を上回りました。全国平均を上回った主な問題は、「目的に応じてグラフを選択し、考えの理由を言葉や数を用いて記述する」「異分母の分数の加法の計算」でした。全国平均を下回った主な問題は、「小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて共通する単位を捉える」「簡単な二次元の表から条件に合った項目を選ぶ」でした。

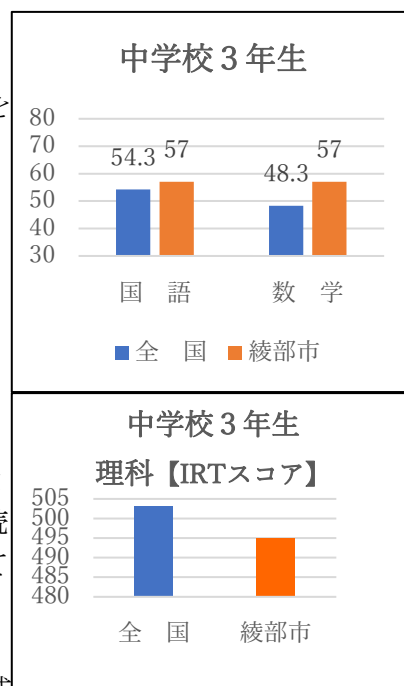
理科も、学習指導要領の内容すべてで全国平均を上回りました。全国平均を上回った主な問題は、「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技術」「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識」でした。全国平均を下回った問題は、「乾電池のつなぎ方について直列つなぎに関する知識」のみでした。

(3) 中学校

国語は、「言葉の特徴や扱い方に関する事項」のみ全国平均を下回り、その他の内容は全国平均を上回りました。全国平均を上回った主な問題は、「書く内容の中心が明確になるように文章の構成や展開を考える」「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして文章を書く」でした。全国平均を下回った主な問題は、「文脈に即して漢字を正しく使う」「事象や行為を表す語彙についての理解」でした。

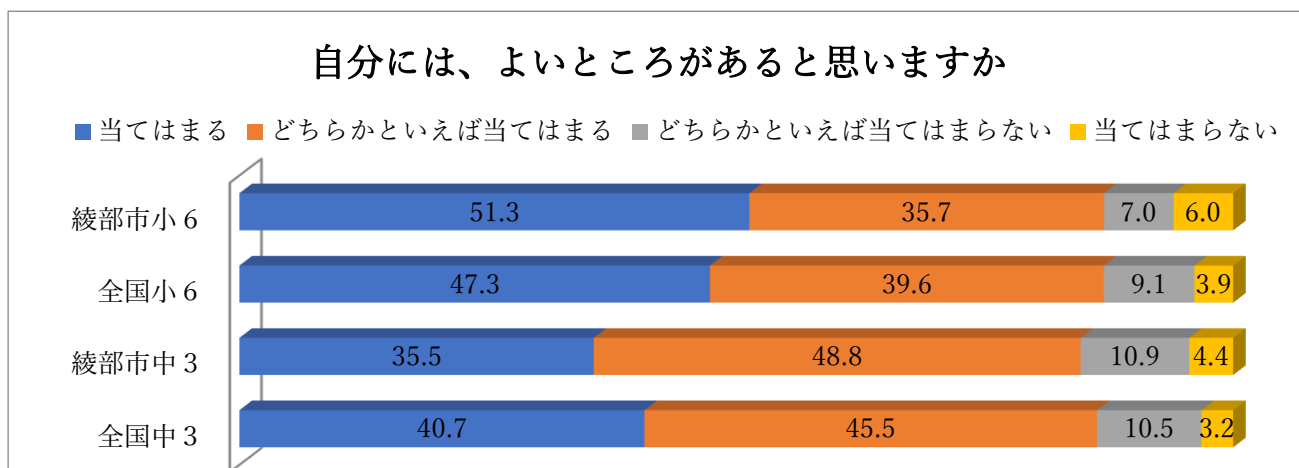
数学は、学習指導要領の内容すべてで全国平均を上回りました。全国平均を上回った主な問題は、「素数の意味の理解」「一次関数 $y=ax+b$ について、 x の増加量に対する y の増加量を求める」でした。全国平均を下回った主な問題は、「式の意味を読み取り、数学的な表現を用いて説明する」「平行四辺形について条件を変えた場合にも平行四辺形になることの証明」でした。

理科で、全国平均を上回った問題数は、「エネルギー」領域 3/5、「粒子」領域 2/8、「生命」領域 3/5、「地球」領域 1/5 でした。全国平均を上回った主な問題は、「身近な電化製品の電気回路の抵抗に関する知識」「植物のスケッチに関する知識・技能」でした。全国平均を下回った主な問題は、「理科の実験では、なぜ水道水でなく精製水を使うのかについて課題設定をする」「元素を記号で表す」でした。



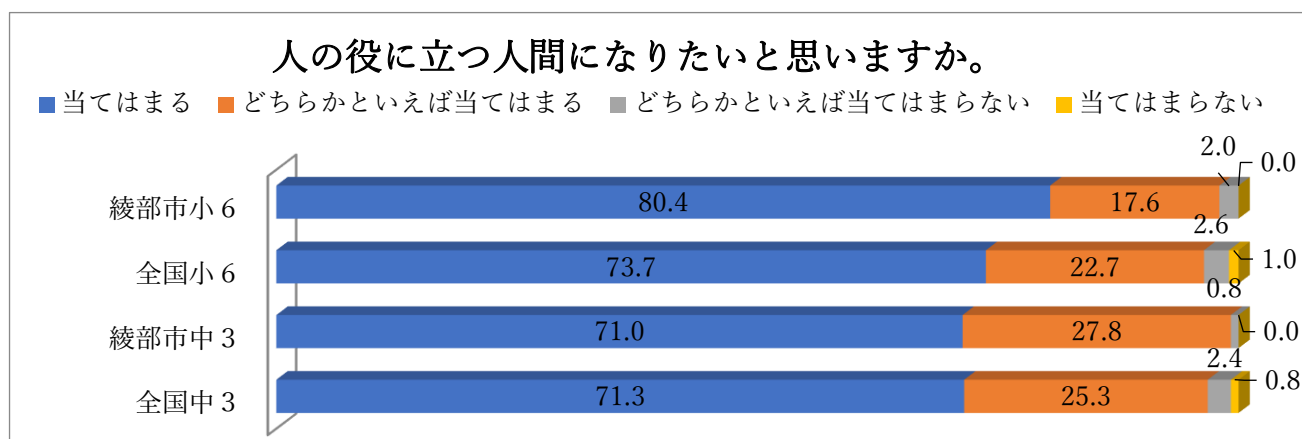
3 質問調査の結果から

(1)



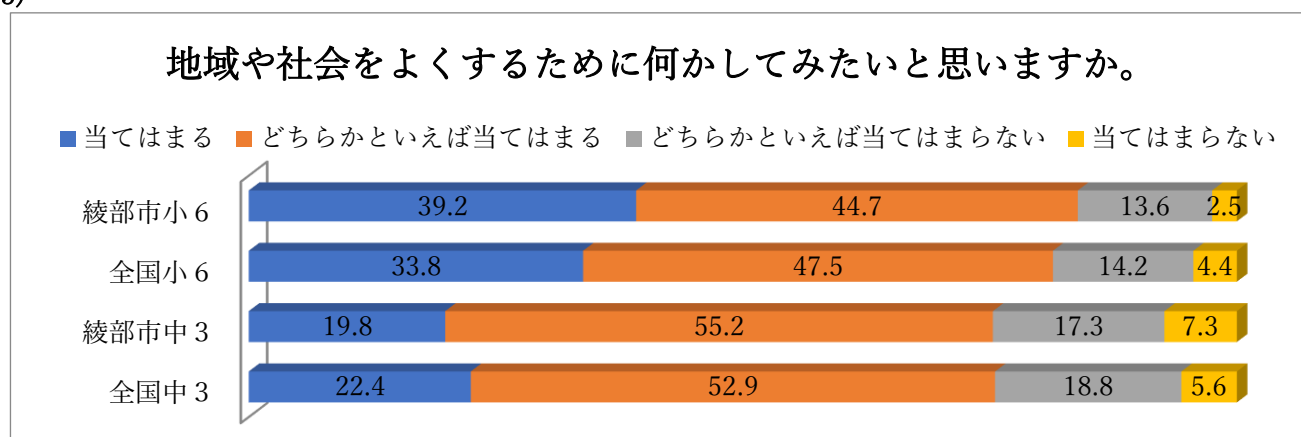
小学生は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が全国値を上回り、中学生は下回っています。(小学生+0.1% 中学生-1.9%)

(2)



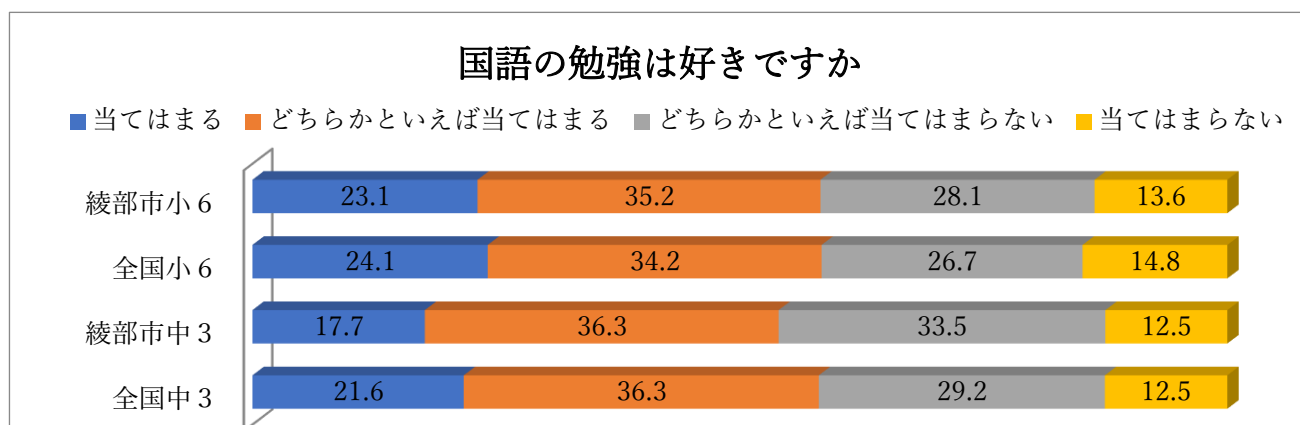
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合は、小学生、中学生ともに95%を超え、全国値を上回っています。(小学生+1.6% 中学生+2.2%)

(3)



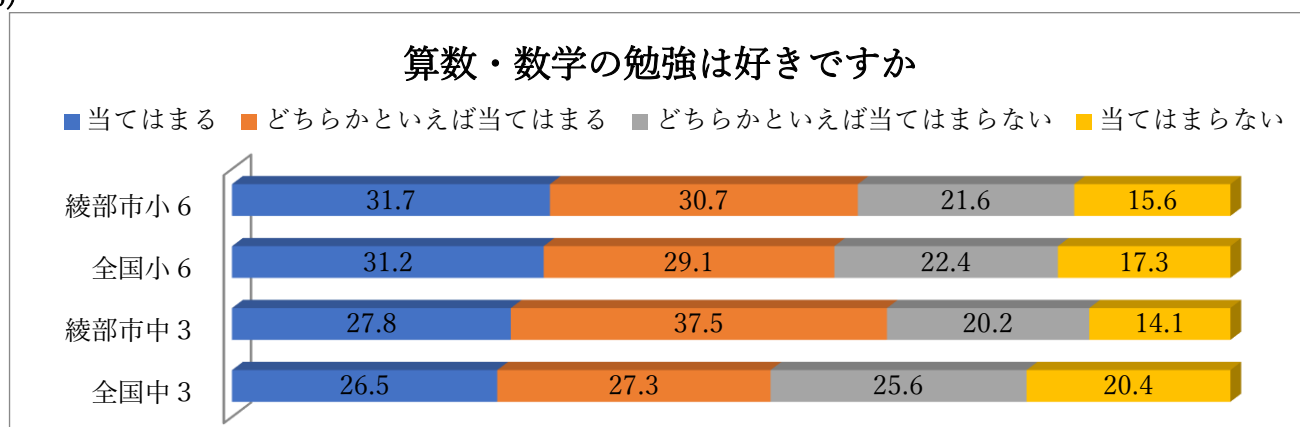
小学生は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が全国値を上回っています。中学生は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が全国値を下回っています。(小学生+2.6% 中学生-0.3%)

(4)



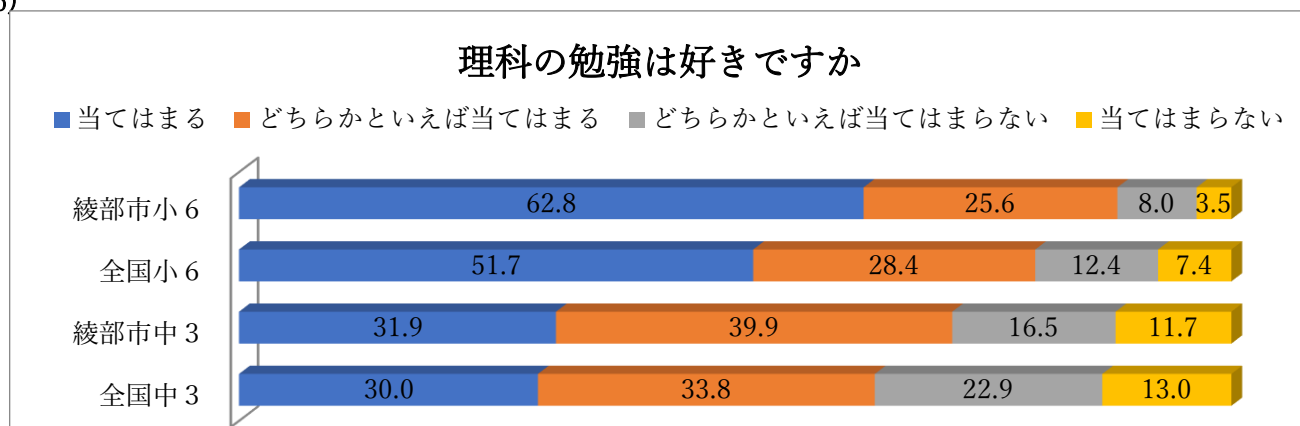
小学生は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が全国値と同率で、中学生は下回っています。(小学生±0.0% 中学生－3.9%)

(5)



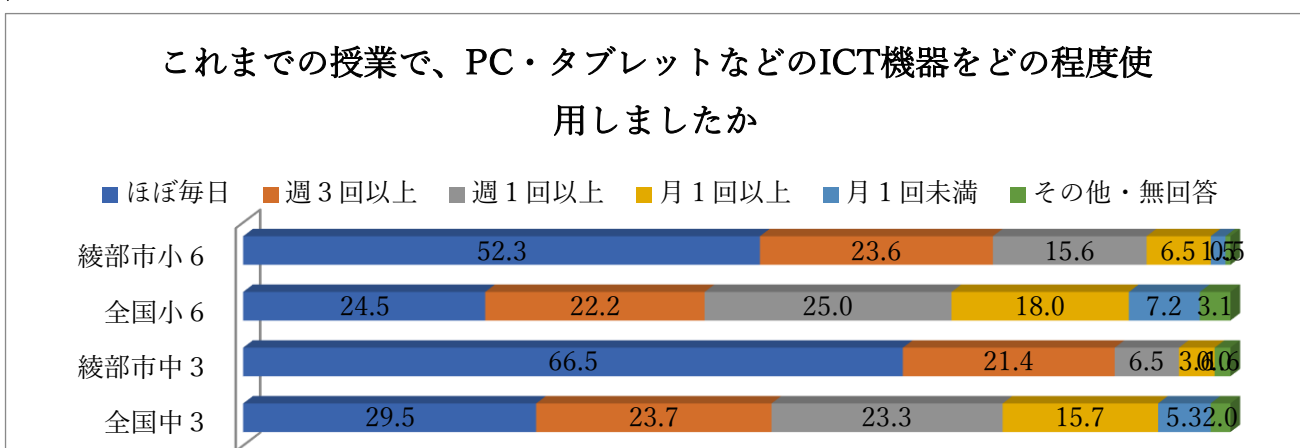
小学生、中学生ともに、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が全国値を上回っています。(小学生+2.1% 中学生+11.5%)

(6)



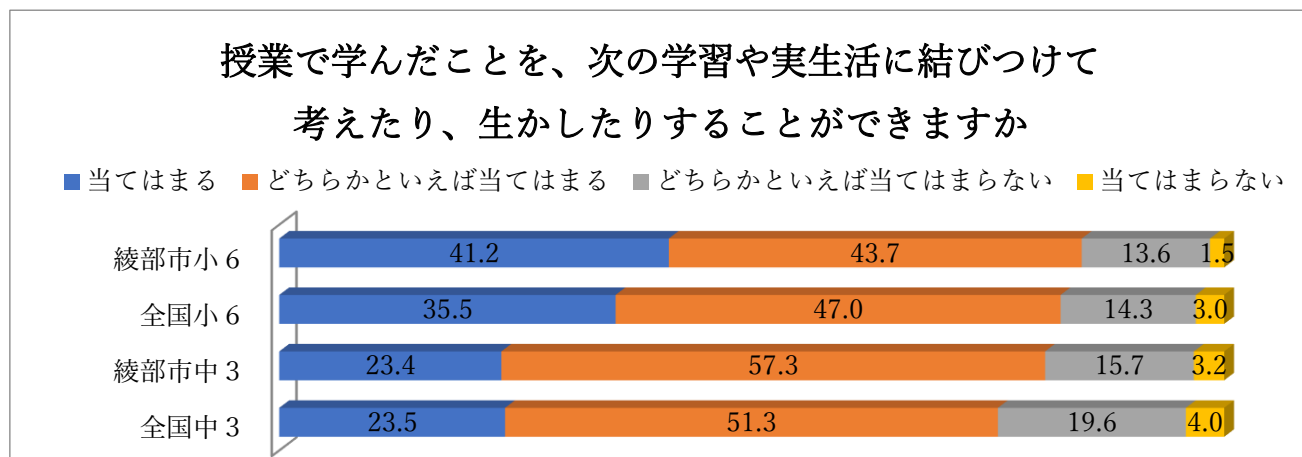
小学生、中学生ともに、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が全国値を上回っています。(小学生+8.3% 中学生+8.0%)

(7)



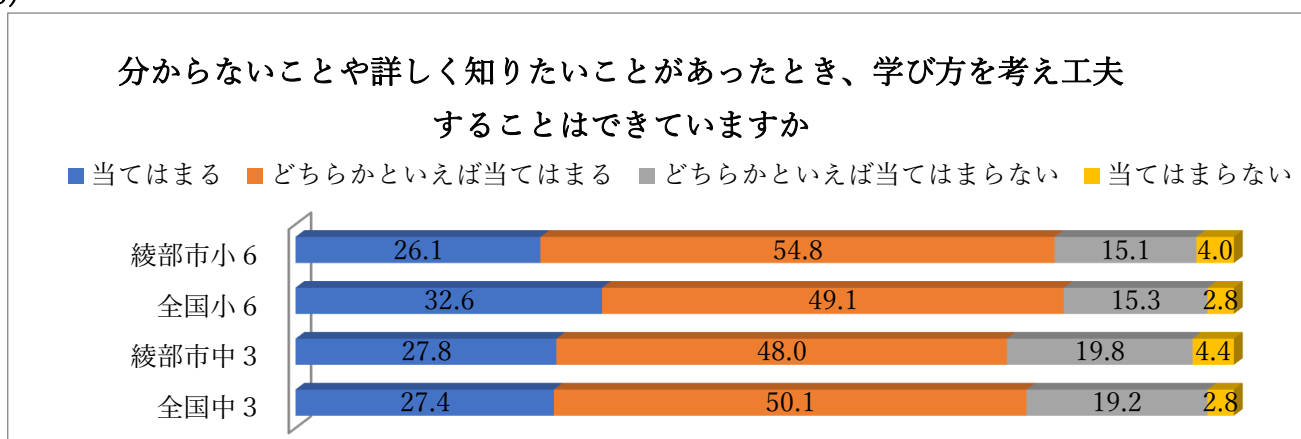
小学生、中学生ともに、「ほぼ毎日」の割合が全国値を上回っています。(小学生+27.8% 中学生+37.0%)

(8)



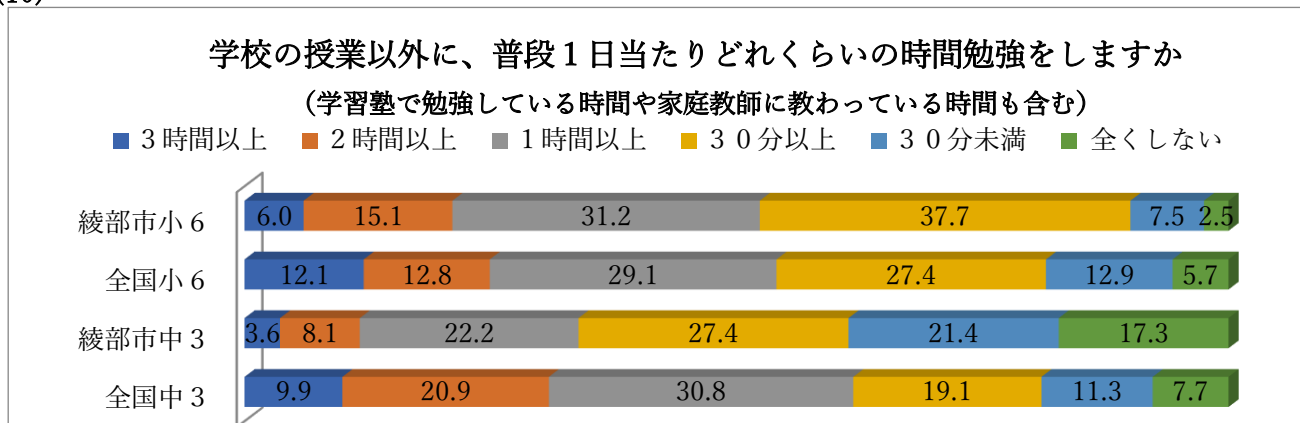
小学生、中学生ともに、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が全国値を上回っています。(小学生+2.4% 中学生+5.9%)

(9)



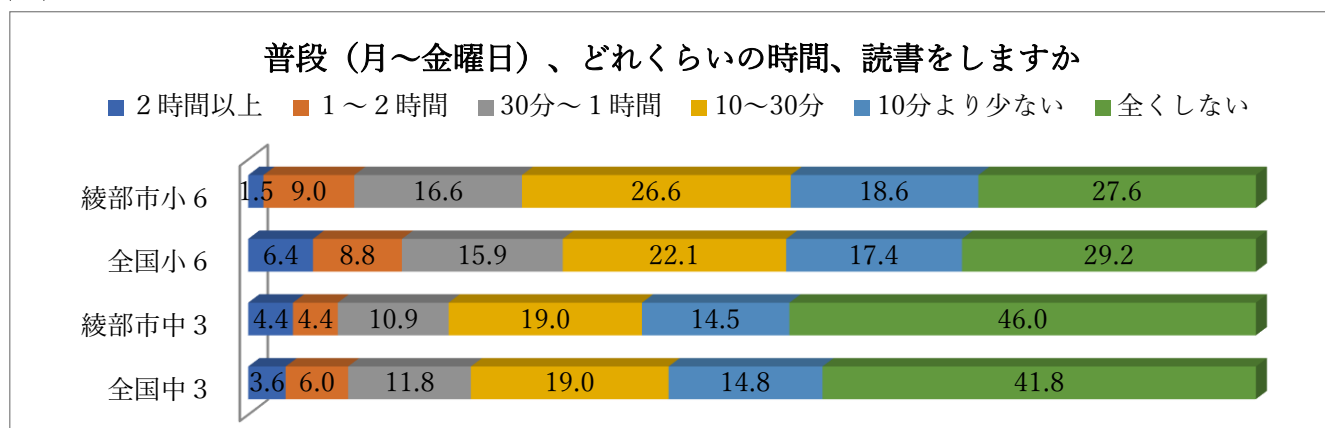
小学生、中学生ともに、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が全国値を下回っています。(小学生-0.8% 中学生-1.7%)

(10)



小学生は、「30分未満」「全くしない」を合わせた割合は全国値を下回っていますが、「2時間以上」と「3時間以上」を合わせた割合も全国値を下回っています。中学生は、「30分未満」「全くしない」を合わせた割合は全国値を上回り、「2時間以上」と「3時間以上」を合わせた割合は全国値を下回っています。

(11)



小学生は、「全くしない」の割合が全国値を下回っています。中学生は、全国値を上回っています。（小学生－1.6％ 中学生＋4.2％）

<結果より>

教科調査から十分な定着の見られた内容については、さらにその力を伸ばし、不十分な内容については、その力が定着するよう、「主体的・対話的で深い学び」を目指す「綾部市の『あい』のある学習」の視点からの授業改善や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、子ども同士の関わり合いの中で子どもが主体的に学びあう授業づくりを、より一層進めます。

また、質問調査の結果から非認知能力に着目し、認知能力と一体的にはぐくむことを目指し、互いを認め合い高め合う「あい」のある教室づくり（学級経営）に、より一層取り組みます。

今後も、「あい紡ぎプラン（綾部市小中一貫教育基本構想）」に基づく一貫教育の中で、小学校と中学校の授業改善をつなぐとともに、児童生徒に「自ら学ぶ力」を身に付けさせることを目指した取組を進めていきます。